

令和4年度第3回 県立横須賀高等学校学校運営協議会 記録

令和5年1月21日実施

1 大竹会長挨拶

これまでコロナの影響でなかなか対面での実施ができなかったが、今年度は3回開催することができた。A棟の仮設校舎への移転、先週は共通テストもあり、生徒も先生方も大変だと思う。新しい環境の中でのスタートと言えるが、これから学校が良い方向へ発展していくよう力になればと思う。

2 令和4年度学校運営の基本方針について 鑑校長より

- ・耐震工事の予定説明。
- ・目下コロナ感染が落ち着いてきており、学校生活も通常に戻りつつある。
- ・SSHの連携機関が増えてきており、嬉しい一方、学校の負担も増えておりバランスをとるのがこれからの課題。
- ・県立学校改革の下、本校の定時制はそのまま継続。
- ・全日制は、働き方改革の動きを促進するため、業務のスリム化が今年の課題。来年は、進路指導に力を入れていく。
- ・定時制は、多様な生徒が入学してきていることから、外部との連携を進め、社会性を育て社会に出したいと思う。学校の規定も10年前のままなので、生徒の変化に合わせて変えていきたい。

3 本校の教育活動について 各グループリーダーより

《全日制》

○学問探究グループ（柴田）

- ・SSH事業2期2年目の取組について
- ・STEAM教育推進の指定を受けて、SSH事業との棲み分けが必要
- ・授業評価については応用力アップが読み取れる。実生活につながる話を授業内ですることが学びの深化につながっている。
- ・理科フェスティバル・沖縄の学会への参加など生徒の積極的な活動あり。

○進路グループ（平田）

- ・未来ナビについて。今年度は1年生を対象とし、2年生はオンラインでの実施。
- ・生徒の満足度が99パーセントとなり、これ以上ない高い数字である。
- ・土曜講習・夏期講習については実施の時期、形態など検討。
- ・模擬試験の結果分析・出願指導に力を入れた。
- ・保護者対象進路説明会には外部の講師による講話も加えた。

○広報図書グループ

・生徒の広報タスクフォースを立ち上げ、生徒目線での広報活動を行った。
生徒から多くの意見・アイデアが出た。保護者からの学校紹介、生徒によるツイッターなど様々な新しい取り組みを実現、今年度の取組を生徒にも発信。

ICT 環境の整備について、生徒については学習活動の枠を広げつつあるが、職員の方は会議のペーパーレス化などにネットワークの状況などから課題が残る。

○生徒支援グループ（佐藤）

- ・部活動の加入率はよい。
- ・生徒の手で「生徒申し合わせ」の見直しを行う「生徒によるルールメイキング」を次年度に継続して進める。
- ・SSW による研修を実施。SSW との連携も図り、教育相談体制を充実させる。

○総務グループ（片桐）

- ・2学期制、70分授業が始まり、年間の行事配置についてグループ間で連携を取りながら進めている。
- ・耐震工事に伴う引越も滞りなく進めることができた。
- ・引き続き感染症対策を徹底した学習環境の確保を進める。
- ・PTA活動が従来並みに戻りつつある。PTAを窓口に家庭と学校の連携を進めていく。
- ・地域の防災訓練等の活動への参加について、小・中学校の状況を見ながら、少しずつでも参加できるような方策を検討していく。

○教務グループ（加藤）

- ・新学習指導要領への対応について
- ・校内での研究授業の充実を図った。

全日制に対する意見等

鈴木委員：土曜講習や夏期講習の対象生徒は？

→全校生徒

総合型選抜の受験を進めるためには、準備は3年生になってからでは遅い。教育系では特に、3年生になってから志望を持つのでは遅い。

清水委員：学校説明会の生徒がとてもよかった。

ボランティア等地域との連携が少しずつ開放に向かっていると思うが、PTAに対し一部でもよいので開放してほしい。

大竹委員：未来ナビは卒業生・朋友会にとってもよい活動になっている。朋友会では学校との関りをもっと強めたいという声があがり、3月にホームカミングデーを開催予定。その時に在校生がどのような活動をしているのかがわかるようなプログラムができればうれしいと思う。

丸瀬委員：中学校校長経験者として、塾が生徒の進路指導に強い影響をもったことを憂慮している。進路指導は、学校が生徒のことを考えて責任をもって進路指導すべきもの

で塾・予備校を「専門家」として保護者に伝えることは注意してほしい。

広報活動の「タスクフォース」はとてもよい言葉で、よい取り組みである。これからも生徒の多様な情報を提供できるのがよい。

廣川委員：SSHで活動する生徒とふれあう機会があったが、生徒はとても立派にやっている。コロナが落ち着いたところで、部活動はじめ多くの活動してほしい。生徒に対する選択肢が増えていることから、地元の生徒に響くような多様な活動を期待する。

岩本委員：公郷町内会は市でも4、5番目に大きな会である。記念館を使った催しを行いたい、町内会も人が減っており、なかなか難しい。いつかは防災訓練には生徒に参加してほしいと思っている。この地域の生徒ばかりではないだろうが、地域にある学校の生徒として、一人でも参加してもらいたい。平作川清掃については、今後も続けてほしい。

《定時制》

○カリキュラムグループ（瓜生）

- ・定時制への入学者層が変化している。
- ・生徒の多様性に合わせて授業改善を進め、テーマを指導の個別化とした。

○ガイダンスグループ（渡辺）

- ・今年度は全日制と一緒に文化祭に参加できた。
- ・SC、SSWと連携しながら、生徒の相談に応じている。
- ・昨秋の段階で全員就職内定している。

定時制に対する意見等

清水委員：地域連携について、PTAに対して要望はあるか？

→最近ではPTA活動が活発でないことが課題。

PTA（全日）でできることはないか？国際交流に関わる仕事をしているので…

外国につながる生徒はどれくらいいるか？

→各学年2～3人。フィリピン、ネパールなど。県の人材バンクを活用し、学習支援員として言葉の習得のための取り出し授業をやっている。

廣川委員：定時制は続けてほしい。地域としてもありがたいし、全日制と定時制の生徒の関わりはよいことであるから、大変だろうが継続を。

キャリア部会

1 第1回の概要

① キャリアパスポート ②進路実績 ③定時制の進路の多様化に応じたガイダンス

2 現在の進路の状況

《全日制》

平田：3年生はデータリサーチを終え、出願検討を行うところ。

- ・基本方針として、生徒が第一志望を希望する場合は生徒の意思を尊重する。国公立について後期の出願を確実にするよう指導する。

3 今後に向けて

野澤：現在、特別クラスを置いているがそれが「特別」として機能しているか、講習や模試の見直し等、1年生の進路支援から見直そうとしている。どういう取り組みを1年生からすべきか？

平田：現在、進路グループでは特別クラスについてのあり方について検討している。

大竹委員：朋友会で、在校生の進路実績が上がらないことが話題になっている。浪人しても受けようという生徒はいないのか、卒業生の中で自分たちは先生に頼っていなかったという話が出た。自分たちで自学自習できていたのだろうか。しかし、時折見せる先生のずば抜けた能力に尊敬の思いも持っていた。

丸瀬委員：私学は特進クラスを置いて1年生からやっている。県から加配等を受けられるならできるが、現在の状況では無理だろう。このクラスは何をするのかを明確にしてやるのが1つ。1年2年の段階で何が必要かという道筋を示してやる。

丸瀬委員：横校で防災教育普及協会に入っている先生はいるか？そういう組織に入るといろいろなつてができるので、SSH等でもぜひ活用すべき。

地域連携ボランティア部会

星名：定時制としては地域連携・PTAのあり方が難しい。

佐藤：平作川クリーンアップ作戦は、体調不良者が出て不参加だった。来年度はぜひ参加したい。

片桐：春光学園とラグビー部の連携が3年前までは行われていた。衣笠商店街のイベントにもコロナ以前は参加していた。

佐藤：コロナが落ち着いてきて、少しずつ生徒が参加できるイベントが増えてきた。今後機会を見つけて積極的に参加したい。

清水委員：学校目標にコミュニティースクールの活用とある。小中連携や地域との連携で活動してもらえるとありがたい。どこまで学校と地域が連携できているか伺いたい。

岩本委員：公郷中の校長先生が積極的に行ってくれている。防災訓練でも中心的役割を担ってくれている。ただ、保護者の理解が得られない部分もあり、地域主催の“祭り”の継承などが難しくなっている。

高校生は地元の子供ではない生徒が多く、防災訓練への参加も難しいところがあるのではないかと。グラウンドに防災倉庫があるが撤去するという話を聞いている。

鑑校長：まだその連絡は受けていない。

星名：生徒が地元ではないというところで難しい部分がある。一つのきっかけとしては防災訓練がある。

片桐：防災訓練の一環として、本校では一年生に“DIG（ディグ）”を行っている。

鑑校長：以前いた学校の近くの小学校で行った防災訓練に高校生が参加していた。公郷中などで行われる際に本校生徒も参加させたいと考える。

片桐：コロナの状況が落ち着けば参加させたい。

岩本委員：機会があれば町内会館を横高生に使用してもらいたい。町内でも敬老の日にセミナーホールを使用させてもらっていた。

鑑校長：施設利用などを通して交流できることもよいことだ。

佐藤：機会があればお願いしたい。

岩本委員：先日、自転車についての苦情があった。ヘルメット着用の推進という話もある。

鑑校長：苦情については、教員間で共有し、生徒にも注意した。

佐藤：ヘルメットの着用については、まだ生徒に話していない。

片桐：自転車運転時の注意事項はPTAからも春にパンフレットを配布するなどしている。

瓜生：第1回に清水委員から地域連携を通して生徒の自己肯定感が高まっているのではないかという話があった。定時制としては清掃活動などが良い経験になっていると考える。今後、防災訓練に参加することで、同じように自己肯定感が高まると思われる。

清水委員：地域の行事への参加は生徒にとってプラスになると考える。

SSH 部会 記録

柴田：進路実績について、より成果を上げるにはどうしたらよいか。

鈴木委員：実績は年々伸びている感想がある。

廣川委員：プロジェクターのみではなく、大型モニターを導入しより豊かな学習環境を整えてみてはいかがか。中学生は大学への進路実績で選んでいないのでは？SSHを楽しそうに取り組んでいる姿を見せたりすることで結果的に実績がついてくるのではないか。

柴田：SSH活動のアピール方法でより効果的な取組みはあるか。

鈴木委員：SSH NEWSが良い、ぜひ継続してほしい。

廣川委員：成功体験や充実した取組みをもっと伝えていくことのほうが良いのでは。実際に生徒の発表を見たが大変素晴らしかった。SSHのみという観点ではなく全体の中の一つの取組みとして活動していくのが良いのでは。

柴田：JSTからの指導のみに固執することなく幅広い評価をもとに活動していくことが重要と感じた。

廣川委員：SSH NEWSで二次元コードを通してYouTubeを貼り付け、その視聴数などを数値化してアピールするのも効果的ではないか。

鈴木委員：生徒の様子を見てみると確実に発表の質と内容は上がっている。

廣川委員：とても充実した内容だが、先生たちの健康面が心配。働き方改革が必要。

小澤教頭：特定の部署や総括に負担がかからないよう調整していきたい。